SHOWA MEDICAL UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE

GRADUATE SCHOOL OF DENTISTRY

GRADUATE SCHOOL OF PHARMACY

GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

GUIDE BOOK 2026

昭和医科大学大学院

昭和医科大学大学院

医学研究科／歯学研究科／薬学研究科／保健医療学研究科

www.showa-u.ac.jp

HATANODAI CAMPUS
旗の台キャンパス

医学研究科　歯学研究科　薬学研究科

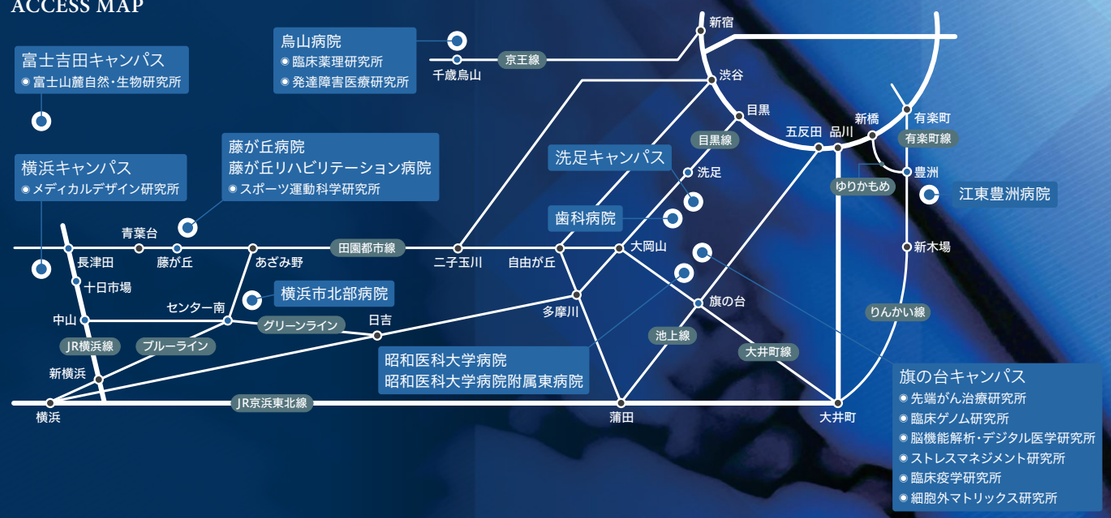
SENZOKU CAMPUS
洗足キャンパス

歯学研究科

YOKOHAMA CAMPUS
横浜キャンパス

保健医療学研究科

ACCESS MAP



SHOWA MEDICAL UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

Graduate School of Medicine
Graduate School of Dentistry
Graduate School of Pharmacy
Graduate School of Health Sciences

本学は「社会の文化と公共の福祉に貢献する」ことを学則にうたい、
何よりも国民の健康に寄与することを大きな目標に、
建学の精神である『至誠一貫』を体現する教育・研究に努めています。

ADMISSION POLICY アドミッション・ポリシー

昭和医科大学大学院は「至誠一貫」の精神をもとに、より高度な医療や研究に邁進し、
人類の幸福に貢献する人材の育成を目指しています。
入学選抜にあたり、私共は次のような多様な学生・社会人を広く求めます。

- 医療・健康・生命科学の専門知識を深く追究する意欲のある人
- 常に探究心を持ち、先進的な医療を担う意欲のある人
- 自らの活動領域を拡げ、医系総合科学を発展させる意欲のある人
- さまざまな分野の専門家と共に、先端的・独創的な研究を志す人
- 社会での実践から得た知識と経験を体系化し還元する意欲のある人
- 国際的視野を持ち、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性を持つ指導者を志す人

President's Message

医療分野の未来を拓く皆さんへ

本学大学院には、医学研究科博士課程（4年）、歯学研究科博士課程（4年）、薬学研究科博士課程（4年）、保健医療学研究科博士前期課程（2年）および博士後期課程（3年）の4研究科があります。

その大きな特徴は、4研究科が揃う医系総合大学の大学院であり、それぞれの研究科が壁を作らず研究活動を行えることです。

また、最高水準の設備とスタッフを擁する8つの附属病院には、研究と教育の両面で最良の環境が整っており、臨床と基礎が密に連携して研究を進めています。

現在、本学大学院では修了生が毎年約100名を数え、4研究科それぞれの分野の未来を拓く研究者や指導者として社会に貢献する優れた医療人を輩出しています。

ぜひ、本学大学院で、皆さんの若いエネルギーと貴重な時間を有意義に使い、後世に残る研究成果を挙げていただきたいと願っております。

昭和医科大学 学長　上條　由美 Yumi Kamijo

「至誠一貫」の精神

上條 秀介 Shusuke Kamijo

昭和医科大学は創立後まもなく、『至誠一貫』の方針を掲げました。

創立者の上條秀介博士は、「社会に役立つ医師や医療職になろうとする一貫した至誠の理想を体得するならば、学生諸君はおのずから真剣となり努力せずにはいられないはずだ、自粛自制をもって『至誠一貫』の真の精神を日常の実践に活かしてもらいたい」と学生を鼓舞しました。

『至誠一貫』は単なる標語ではなく、学問を学び、医療に携わる一人ひとりの確固たる信念を指していたのです。博士は入学式においても、「古語に曰く『医は仁なり』すなわち、この仁の気持ちは至誠であります。将来、悩める人に接する医者に、この気持ちが絶対に欠けてはならないのであります。この至誠をどこまでも貫くということを我らは片時も忘れてはならない。『至誠一貫』は本校の校是であり同時に校風なのであります」と述べています。

大学院の魅力

01 4つの研究科と8附属病院が連携、ボーダレスな研究環境

昭和医科大学大学院の特色は、医学・歯学・薬学・保健医療学の4つの研究科がそれぞれの専門領域を超えて、連携し合える環境にあります。

さらに８つの附属病院と連携し、数多くの症例や臨床データを科学的なアプローチで究明したり、あるいは基礎研究で得られた発見を臨床で応用するなど、臨床と基礎が融合した研究環境が整っています。

02 医療人と大学院生が両立できるプログラム

社会人受入制度

昭和医科大学大学院では、社会人の受入れを積極的に推進しています。平日の日中は医療人として専門分野で勤務をしながら、平日の夜間および土日に開講される講義を受講することで単位を修得できるよう、各研究科ともにカリキュラムを整備しています。さらに、オンライン授業の取り組みも進めています。また、臨床研修医、臨床研修歯科医、臨床研修薬剤師も社会人として入学し、基礎系科目を専攻することが可能です。

03 充実した施設と支援で高度な研究に対応

共同研究施設、支援の詳細は ➤ P.16

各研究科・講座の研究室のほかに、高度な研究に対応した、共同で使える施設があります。私立大学では有数の機器もそろい、施設スタッフのサポートのもと大学院生も活用できます。

また統括研究推進センターでは研究に関するさまざまな支援が受けられます。セミナーやワークショップのほか、個別の研究の相談、論文執筆の支援も行っており、大学院生にも開かれています。

Graduate School of Dentistry

高橋 夏大さん

歯学研究科
医科歯科連携診療歯科学
歯科薬理学3年次

宇宙医科学の研究をとおして顎骨壊死の積極的治療への糸口を探る

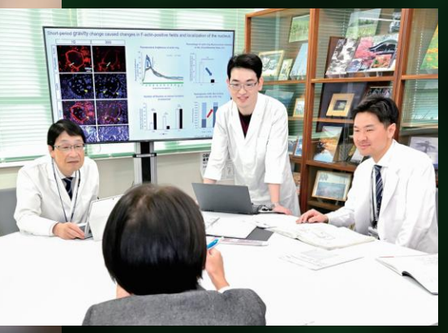
歯科治療を進歩させる重力変化と硬組織の研究

高橋夏大さんが臨床で所属する医科歯科連携診療歯科は、歯科治療に際して医学的な配慮が必要な患者さんを対象とする診療科です。日々の診療の中で、高橋さんは骨粗鬆症の治療薬を処方されている患者さんの顎骨壊死を防ぎたいと考えるようになりました。

「骨粗鬆症の治療薬には、骨組織を吸収して新しい骨組織を再構築する『リモデリング』を遅らせる副作用があります。歯科治療で抜歯やインプラント手術などを受けると、リモデリングが遅れて感染症を起こしやすく、顎骨壊死のリスクが高まります。顎骨壊死には積極的な治療法がまだなく、痛みも多いので何とか救いたいという思いから、大学院で基礎研究を行いたいと考えるようになりました」

高橋さんは大学2年次の研究入門や4年～6年次のマルチドクタープログラムにて、メダカの稚魚のヒレや骨格の形成に重力の変化が影響を与える基礎研究をした経験があります。そのときの指導教員だった歯学研究科・歯科薬理学の茶谷昌宏准教授に、どのような基礎研究が顎骨壊死の積極的治療につながるのか相談してみました。茶谷准教授は重力変化が骨のような硬組織に与える影響の研究を続けることが、骨を吸収する破骨細胞の解明につながり、ひいては骨粗鬆症の治療薬による顎骨壊死を防ぐことにつながるかもしれないと提案してくれました。茶谷准教授は重力に対する生体の応答機構を明らかにする「宇宙医科学研究」を推進しており、その研究はJAXA宇宙科学研究所フロントローディング研究にも採択されています。

高橋さんは遠心力を利用して重力の変化を再現する模擬微小重力装置・加重力発生装置を使い、マウスの大腿骨から採取した破骨細胞の働きがどのように変わるか調べる研究を行うことにしました。その結果、破骨細胞のアクチンリングという骨の表面に付着して吸収する環状の部分の形態に変化が生じること、骨吸収能力が下がることを突き止めました。また、マウスの胎児から取り出した脛骨を培養する実験では、重力変化によって脛骨の形状に変化が起きることもわかりました。研究をさらに進めて、アクチンリングの働きを制御する薬がつくれれば、骨粗鬆症の予防につなげることができるかもしれません。それが歯科治療による顎骨壊死を防ぐ可能性もあります。



薬理科学研究センター長
木内 祐二教授（左）

歯科薬理学
指導教員 茶谷 昌宏准教授（右）

壁のない薬理科学研究センターが研究や後進の教育を加速する

高橋さんにこのような実験を可能にしたのは、医学・歯学・薬学の研究者が同じ場所で研究に取り組む「薬理科学研究センター」です。この研究センターには3つの研究科を隔てる壁が文字通りありません。異なる分野の研究者が自由に交流できるだけでなく、マウスの胎児からとった脛骨といった小さな試料を調べるマイクロCTのような高価な機器も共同で使うことができます。

「私の専門分野でないことを、他の分野の研究者に気軽に質問することができます。私が専門にしている硬組織について、医学部、薬学部出身の研究者に教えることも多いですね」

高橋さん自身も将来は教育者として後進を育てることに携わりたいと考えているため、後輩の大学院生や学部生のサポートにも力を入れています。

医科歯科連携診療歯科学
指導教員 マイヤース 三恵准教授

「私は昭和医科大学の特別奨学生なのですが、『特別奨学生の会』という組織をつくり、年会や学内外の先生を招く講演会を企画しています。講演会後の懇親会では、研究者同士が出会って新たな共同研究が生まれることもあります。ほかにも、大学6年生の歯科医師国家試験対策を支援する『D6学修サポート』という活動も行っています」

臨床の指導教員である医科歯科連携診療歯科のマイヤース三恵准教授は、基礎研究につながる症例を臨床においてもあえて担当させていると話します。

「高橋さんの研究は、将来的に顎骨壊死の患者さんを救うことにつながるものです。そのため、臨床でも高齢者やがんの患者さんで顎骨壊死を起こしているような難しい症例を担当してもらっています。それが基礎研究をするうえでの問題意識やモチベーションにつながると思うからです」

将来は歯科薬理学や宇宙医学といった基礎研究の重要性を深く理解したうえで、臨床への応用を進め、革新的な研究成果を生み出したいという高橋さん。基礎研究の茶谷准教授、臨床のマイヤース准教授に支えられながら、歯科医師という自分の強みをいかして、一流の研究者として独立することを目標に努力を続けています。

※学年・役職は2025年3月現在

Graduate School of Medicine

医学研究科

博士課程医学専攻

個々が能力を十分に発揮できる研究環境と社会人大学院生に対する積極的なサポート

研究科長 泉﨑 雅彦
Masahiko Izumizaki

本医学研究科は、最先端の基礎研究、臨床研究の分野で活躍する指導教員が、医療、医学研究の担い手、指導者として活躍する人材を育成しています。生命科学・医学研究者を目指す人、高度な専門知識と技術を持った臨床医を目指す人、医学部以外出身者で出身学部の特性を生かした医学研究者を目指す人などに広く門戸を開き、社会および医学・生命科学の課題に対し、個々人が能力を十分に発揮できる研究環境を備えています。また、昭和医科大学には、昭和医科大学病院をはじめとする８附属病院と専門的な各研究所があり、最先端の分野で活躍する教員と充実した設備を備えています。

指導教員は、講義、演習、実習、学会発表や学位論文の作成等に対する指導を通して、大学院生が深い洞察力および専門的知識と技術を修得できるよう支援します。さらに、研究分野に関わらず、大学院生は「共通科目」を履修し、医学研究に共通して必要な知識や技術を修得します。また、大学院修了後には自らの学識を他者に教授する機会が多く見込まれるため、指導者としての教育能力を育むプログラムを用意しています。

本医学研究科は、社会で働いている方々を積極的に受け入れています。教員は社会人大学院生への指導経験も多く、充実した大学院生活が送れるよう積極的にサポートします。皆様が昭和医科大学大学院医学研究科で研鑽を積み、医療、医学研究の担い手として、そして指導者として大いに活躍することを願っています。

研究分野および指導教員（2025年4月1日現在）

顕微解剖学	川西　邦夫
肉眼解剖学	大塚　成人
生体制御学	砂川　正隆
生体調節機能学	泉﨑　雅彦
生化学	前濱　朝彦
臨床病理診断学	矢持　淑子
医科薬理学	小口　達敬
臨床薬理学	内田　直樹
微生物学免疫学	伊與田雅之
衛生学公衆衛生学	小風　　暁
法医学	松山　高明
医学教育学	泉　　美貴

呼吸器アレルギー内科学	田中　明彦
リウマチ・膠原病内科学	矢嶋　宣幸
糖尿病・代謝・内分泌内科学	山岸　昌一
消化器内科学	吉田　　仁
循環器内科学	新家　俊郎
腎臓内科学	本田　浩一
血液内科学	服部　憲路
脳神経内科学	村上　秀友
腫瘍内科学	堀池　　篤
緩和医療科学	横山　和彦
臨床感染症学	時松　一成
リハビリテーション医学	川手　信行
皮膚科学	猪又　直子
小児内科学	水野　克己
小児循環器内科学	藤井　隆成
精神医学	真田　建史
放射線科学	扇谷　芳光
放射線治療学	伊藤　芳紀
総合診療医学	小風　　暁（代行）

心臓血管外科学	山口　裕己
小児心臓血管外科学	宮原　義典
呼吸器外科学	小風　　暁（代行）
消化器一般外科学	青木　武士
乳腺外科学	林　　直輝
小児外科学	渡井　　有
脳神経外科学	諸藤　陽一
整形外科学	工藤　理史
形成外科学	門松　香一
産婦人科学	関沢　明彦
眼科学	恩田　秀寿
泌尿器科学	深貝　隆志
耳鼻咽喉科頭頸部外科学	嶋根　俊和
麻酔科学	大江　克憲
集中治療医学	阿部　智一
救急・災害医学	土肥　謙二

大学院がキャリアプランの転機に

修了生の活躍

諸星 北人さん
2017年9月 博士課程修了
昭和医科大学医学部
衛生学公衆衛生学講座 講師

私は、「学位があると便利かな」と大学院（医科薬理学分野）へ進学しました。薬物相互作用を研究テーマに研究し、学位取得後は臨床薬理研究所で治験や臨床研究に従事しました。海外留学からDB研究に興味を持ち、現在は衛生学公衆衛生学講座に所属しています。

大学院を経てキャリアプランは臨床医から大きく変化し、Ph.D.であることは海外留学をスムーズに進められ、臨床医からの転向・現所属への異動と、私の人生の転機には学位が関連していました。皆様も学位取得で想像もしなかった人生を楽しく歩むことになるかもしれません。また、大学院で学んだ論理的思考は、批判的吟味や情報検索の能力向上に伴い臨床現場で活かせるので、臨床医を続ける上でも役に立ちます。患者さんにより良い医療を提供するために、皆様が大学院へ進学し一緒に研究できることお待ちしています。

研究の現場を訪ねて

日本の鍼治療をアカデミックに探究、モンゴルの医療の発展に寄与する

生体制御学

院生 4年次
チュロウンバト・オユンチメグさん

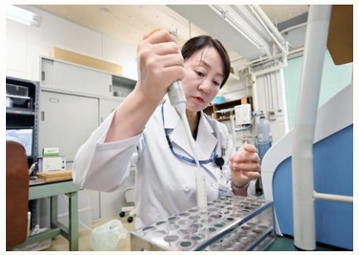
指導教員
砂川 正隆教授

チュロウンバト・オユンチメグさん（以下、メグさん）は、モンゴルから留学している大学院生です。モンゴル国立医科大学で西洋医学を修了後、中国の鍼を学んでいたメグさんは、中国とは大きく異なる日本の鍼治療を身につけたいという想いから来日。日本の鍼灸師の国家資格を取得して、おもに膝の痛みなどスポーツ傷害の鍼治療をしてきました。あるとき、患者さんからこんな質問を受けました。

「鍼治療で膝の痛みがなくなるのは、どのようなメカニズムからですか?」

メグさんは答えを持っていませんでした。まだ、医学的に解明できていないことが多いからです。鍼治療のメカニズムを研究したいと考えたメグさんは、鍼治療の基礎研究で有名な昭和医科大学大学院の砂川正隆教授（生体制御学）を知人に紹介してもらいました。砂川教授はメグさんの研究の意義を次のように語ります。

「鍼治療の基礎研究を医学部の大学院が行っている例はほとんどありません。メグさんが博士号を取得してモンゴル国立医科大学の教員になることは、日本の鍼治療をモンゴルに広めることにもつながります。ぜひ応援したいと思いました」



通電する経穴の適切な選択が電気鍼治療法の効果を向上させる

メグさんが学位論文のテーマに選んだのは、電気鍼療法による変形性膝関節症の治療メカニズムです。変形性膝関節症は、関節の軟骨が劣化したり滑膜炎を起こす疾患で、進行を止める薬がないことから痛みの緩和に重点が置かれます。変形性膝関節症の痛みを電気鍼療法で緩和するときは、2つの経穴に刺した鍼の間に電気を流して刺激します。そのメカニズムを探るため、メグさんはラットを使って実験しました。

変形性膝関節症における軟骨の劣化は、おもに酵素・アグリカナーゼ（ADAMTS5）によるものとされています。メグさんは電気鍼療法が疼痛や軟骨変性に与える効果、さらには滑膜組織におけるアグリカナーゼ発現にどのような影響を受けるかについて確かめることにしました。

「実験では、①健康なラット、②偽手術をしたラット、③手術で変形性膝関節症を起こさせたラットに加え、③のラットに対して、④足三里と膝頂という経穴に電気鍼を刺したラット、⑤足三里と曲泉という経穴に電気鍼を刺したラットという5種類の群について運動能力を調べました。また、脊髄に発現するc-fos陽性細胞の数をカウントすることで痛みの評価を行い、さらには、膝関節を採取して関節変性の程度を評価したり、滑膜におけるアグリカナーゼの発現量も測定しました」

メグさんはそれまで動物実験の経験がなかったため、池本英志講師が心技の両面から指導をしました。実験の結果、電気鍼療法を受けたラット④⑤は、行わないラット②③と比較して運動能力が回復し、痛みの目安になるc-fos陽性細胞の発現も抑制されました。組織学的分析では、軟骨変性と骨棘形成がラット④は大幅に軽減されましたが、ラット⑤には顕著な改善はありませんでした。これは、電気鍼療法の治療効果を高めるためには経穴の選択が重要であることを示唆するものです。

この学位論文で大学院を修了したメグさんは、博士としてモンゴルに戻り、後進の指導や患者さんの治療にあたります。昭和医科大学大学院で鍼治療の基礎研究した経験をいかして、学生や患者さんにアカデミックなアプローチから教育や治療にあたり、日本の鍼治療をモンゴルに広めていくことでしょう。

指導教員
池本 英志講師

※学年・役職は2025年3月現在

Graduate School of Dentistry

歯学研究科

博士課程歯学専攻

研究を志す諸君へ
人生には必ずチャンスが回ってくる

研究科長 髙見 正道
Masamichi Takami

“歯科医師国家試験に合格し臨床研修を終えたら大学院に進学しようか、それとも歯科医師の仕事を始めようか”このように迷っている人が若い皆さんの中には数多くいることと思います。私からアドバイスするとすれば、大学院に進学するにあたって必要なのは、科学と医療への「好奇心」や「貢献心」であって、「才能」とか「見栄」ではありません。

大学院歯学研究科では、基礎分野、臨床分野ともに「研究に向き合い続ける」ことが生活の中心となり、皆さんがこれまで経験したことの無い苦しさと楽しさを味わうことになります。そこでは、指導教員や先輩そして患者さんから多くのことを学び、自分自身と向き合うことで研究者としてだけでなく、高い見識と適応力を備えた教育者や歯科医師としても成長していきます。

このように、大学院歯学研究科に進学して自己研鑽することは、長い人生の中で数少ない「チャンス」の1つと言えます。このチャンスには様々なトラブルや挫折も伴いますが、その長いトンネルを抜けると、今よりもひと回り成長した自分がいるのは確かです。

大学院歯学研究科の幅広い研究分野の中には、皆さんにとって興味や、やりがいを感じる研究テーマが必ずあるはずです。それがわからない時は、教員や大学院生など、誰でもいいので相談してください。自らの将来を見据え、高い志を持って生きて行こうとする皆さんの大学院進学を楽しみにしています。

研究分野および指導教員（2025年4月1日現在）

歯学教育学	坂井　信裕
口腔解剖学	野中　直子
口腔生理学	中村　史朗
口腔生化学	塚崎　雅之
口腔微生物学	桑田　啓貴
歯科薬理学	髙見　正道
歯科理工学	柴田　　陽
口腔病理学	美島　健二
口腔衛生学	弘中　祥司
保存修復学	小林　幹宏
歯内治療学	鈴木　規元
総合診療歯科学	長谷川篤司
歯周病学	山本　松男
歯科補綴学	馬場　一美

顎顔面口腔外科学	大場　誠悟
口腔腫瘍外科学	馬場　一美 ※
歯科矯正学	中納　治久
歯科放射線医学	松田　幸子
インプラント歯科学	宗像　源博
小児成育歯科学	船津　敬弘
口腔機能管理学	古屋　純一
歯科麻酔科学	増田　陸雄
総合内科学	馬場　一美 ※
医科歯科連携診療歯科学	馬場　一美 ※
口腔機能リハビリテーション医学	馬場　一美 ※
障害者歯科学	馬場　一美 ※
顎関節症治療学	菅沼　岳史

※ 教授代行および研究分野責任者

2023年3月 博士課程修了
厚生労働省医系技官
日本医療研究開発機構（AMED）
橋渡し・臨床加速事業部 課長代理

大学院で得た研究センスで最先端の研究開発を支える

修了生の活躍

私は2023年に大学院を修了し、現在、厚生労働省医系技官として、政府が主導する医療分野の研究開発や環境整備を担う機関（AMED）に勤めています。日々、業務に邁進する中で、大学院で研究センスを養うことができたことの大切さを実感しています。

大学院時代を振り返ると、不安もありましたが、新しい世界へ羽ばたけるような夢を常に抱きながら研究と向き合っていました。小児成育歯科学を専攻したことも、私の歯科医師としての人生を支える上で大きな意味を持っています。皆さんが大学院に進学され専門性の高い研究をすれば、これからの日本の医療が変わります。そんな秘めた力を持っている皆さんを修了生の1人として心から応援しています。

研究の現場を訪ねて

歯科麻酔に新たな選択肢をもたらす
レミマゾラムの静脈内鎮静法を探求

歯科麻酔科学／歯科薬理学
院生 3年次
大塩 葵さん

大塩葵さんは、昭和医科大学歯科病院の歯科麻酔科に所属する大学院生です。大学4年次の「マルチドクタープログラム」を選択するなかで、研究に興味を持つようになり、卒業後、歯科麻酔科への入局と同時に大学院に進学しました。研究テーマは、新しい麻酔薬であるレミマゾラムの麻酔作用の解析です。静脈内鎮静法は全身性の疾患や歯科治療恐怖症、歯科用器具などの刺激に対して嘔吐反射がある患者さんの意識を低下させ、不安を和らげる目的で使いますが、患者さんは歯科医師の呼びかけに反応することもでき、当日帰宅も可能です。

「レミマゾラムには従来から使われてきた麻酔薬と比較して血圧が下がりにくく、覚醒が遅れたときに使う拮抗薬があるなどの利点があります。しかし、日本では全身麻酔が保険適用になっているだけで、静脈内鎮静法ではまだ使えません。レミマゾラムを静脈内鎮静法で安全に使うための基礎研究を通して、臨床で使用できるように貢献したいと考えました」

太さ約0.8mmの血管にカテーテルを入れたマウス

大塩さんは歯科麻酔科の増田陸雄教授と西村晶子准教授とともに、歯科薬理学分野の髙見正道教授を尋ね、「レミマゾラムの静脈内鎮静法を研究したい」と持ちかけたところ、髙見教授は「ご提案の研究が医療にとって重要であることは理解しました。ゼロから実験系を立ち上げるのは大変ですが、ぜひ挑戦しましょう」と研究指導を引き受けてくれました。

実験を開始して早々、実験動物として使用するマウスの血管にカテーテルをいかにして挿入するか、という壁にぶつかりました。マウスの血管は太い部分でも0.8mm程度しかなく、動脈と静脈それぞれにカテーテルを挿入し、静脈からレミマゾラムを投与、動脈からは血液を採取しなければなりません。

大塩さんは実験指導者である畔津佑季助教とともに多方面にわたって調べたところ、実験に応用できそうなモデルマウスを東京大学のベンチャー企業が開発したことを知りました。大塩さんと畔津助教はその手技のトレーニングを受け、さらに工夫を加えることで独自の静脈内投与モデルにおける鎮静評価システムを構築しました。マウスの状態を測定するための機器の購入には約300万円ほど必要でしたが、昭和医科大学が助成する研究機器整備費に応募したところ採択され、いよいよ実験が進み始めました。

大塩さんはモデルマウスにレミマゾラムを静脈内投与したのち、1分ごとに麻酔の効き具合をノートに書き留めていく実験を、投与条件を変えたり同時にバイタルサインの測定も行うなどいくつか実験を行い、データをノートにまとめていきました。

増田教授と西村准教授にそれまでの研究経過と結果を報告しました。大塩さんの実験ノートと報告書を見て「麻酔の生物学的な作用と安全性を考える上で非常に興味深い結果ですね」と増田教授。「次はどんな実験をする予定ですか？」との西村准教授の問いには「薬学部の中野僚太助教のもとで、モデルマウスの行動試験を計画しています」と大塩さん。増田教授は歯科麻酔学会での成果発表を勧めました。

臨床研究と基礎研究の指導教員、そして昭和医科大学の研究支援により、大塩さんの研究は着実に進んでいます。歯学部の臨床、基礎の連携だけでなく、薬学部、医学部との連携は昭和医科大学ならではの研究環境といえるでしょう。学位取得後の臨床研究を見据えて、大塩さんの研究はまだまだ続きます。

指導教員 歯科麻酔科学
増田 陸雄教授

指導教員 歯科薬理学
髙見 正道教授（右）

指導教員 歯科薬理学
畔津 佑季助教（中央）

※学年・役職は2025年3月現在

Graduate School of Pharmacy

薬学研究科

博士課程薬学専攻

多様なニーズに応える様々な研究指導体制とキャリアパスにより将来のリーダーを育成する薬学系大学院へ

研究科長 野部 浩司
Koji Nobe

薬物による治療は近年めざましい変化と革新を遂げ、これまで困難だった疾患の治療薬が登場する一方で、経験したことのない有害作用が発現することもあります。そのため、多様な「薬」を把握し、適切な使用や管理を統括できるプロフェッショナルの存在が強く望まれています。

昭和医科大学大学院薬学研究科は、「薬」に関するプロフェッショナルである、“博士（薬学）”を育成するだけでなく、高い実践的能力を持ち、医療の場でその力を発揮できる人材の育成を目指しています。加えて後進を指導できる優れた教育者を育てることも大切な目的としています。その達成のため、我々は2018年より「研究力向上」を重点テーマとした改革を進めてきました。その柱として、大学院生への研究指導資格を明確にし、個々のニーズに合わせた専任の指導者を配置し、定期的な研究進捗確認や充実した学術的・経済的サポート体制を構築しています。基礎研究だけでなく臨床研究を通して学位を有する臨床薬剤師が高い専門性を発揮できるように教育を進めています。

このような取り組みにより、薬学研究科は国内最大の薬学系大学院へと成長しましたが、重要なことはその規模が日本一であるということではなく、在籍者ひとりひとりに対して十分な研究指導を行い、高い学位取得率を維持している点です。

現在、薬学のプロフェッショナルが解決しなければいけない点は多くあります。その過程で様々なことを学び、技術と経験を積んでいただく大きなフィールドを私たちは提供しています。2025年4月の校名変更を一つの節目とし、さらなる充実した大学院を私たちと一緒に作っていきましょう。

研究分野および指導教員（2025年4月1日現在）

薬学教育学	小林　靖奈	衛生薬学	原　俊太郎
医薬化学	福原　　潔	薬剤疫学	今井志乃ぶ
生体分析化学	加藤　　大	薬物治療学	向後　麻里
生物物理化学	合田　浩明	天然医薬治療学	川添　和義
生物化学	板部　洋之	感染制御薬学	石野　敬子
腫瘍細胞生物学	柴沼　質子	がんゲノム医療薬学	藤田　健一
毒物学	沼澤　　聡	臨床栄養代謝学	千葉　正博
薬理学	野部　浩司	臨床研究開発学	肥田　典子
製剤設計学	勝見　英正	臨床病態学	磯﨑　健男
薬物動態学	杉山恵理花	病院薬剤学	田中　克巳
社会薬学	岸本　桂子		

将来多くの人に役立つ可能性が基礎研究の魅力

修了生の活躍

宗友 咲子さん
2024年3月 博士課程修了
昭和医科大学薬学部
病院薬剤学講座 助教
昭和医科大学病院薬剤部

博士課程では毒物学にて、父親の覚醒剤乱用が子や孫に与える影響を明らかにするためにマウスを用いた研究を行いました。父親マウスの覚醒剤摂取は子供の発育遅延と記憶力の低下、孫の幼少期の肥満を生じることを明らかにしました。父親側の要因による後世への影響は、長期的な検討が必要であることが分かりました。このように、基礎研究は今取り組んでいるテーマが将来多くの人に役立つ可能性があるという点に魅力を感じました。

現在は病院薬剤師として勤務していますが、博士課程で得た論文の読み方や発表スキルは自分自身だけでなく学生や後輩育成の場面でも役立っています。今後は多施設共同研究を行うことができる本学の強みを生かし、ヒトの父親側の要因による後世への影響についての研究にも取り組みたいと考えています。

研究の現場を訪ねて

既存の整腸剤の転用により がん免疫療法の効果を向上させる

薬理学
院生 3年次
船山 英治さん

指導教員
野部 浩司教授（写真上）

臨床薬理研究所
指導教員
吉村 清教授（写真中央）

がんの治療は、オプジーボなどの免疫チェックポイント阻害薬によるがん免疫療法により、新たな時代を迎えました。ステージ4の患者さんでも長期生存が期待できるようになったのです。しかし、治療が奏功するのはまだ2割程度にとどまっています。薬学部を卒業した船山英治さんは、薬剤師の視点からがん免疫療法で救える患者さんをもっと増やせないか考えました。

臨床薬理研究所・臨床免疫腫瘍学部門の吉村清教授の指導により、船山さんは腸内細菌叢に着目して、免疫チェックポイント阻害薬（以下、ICI）の治療効果を向上させる研究を学位論文のテーマに選びました。腸内細菌叢は、ヒトの免疫システムに重要な役割を果たすことがわかっています。

「がんの免疫療法を行う患者さんは事前に化学療法を受けていて、免疫状態が悪化していることがあります。そのため、感染を防ぐ抗菌薬を使うのですが、そうするとICIを投与しても治療効果が落ちてしまいます。そこで、ビフィズス菌などのプロバイオティクス（いわゆる善玉菌）を投与することでICIの有効性が維持できないか実験しました。これが証明できると、ビフィズス菌などを含む安価な既存の整腸剤でICIの有効性を高めることができます。将来的にがん患者さんをより多く救うことにつながるかもしれません」

優秀な成績をあげて大学院を3年で早期修了

最初、船山さんはがん細胞に直接プロバイオティクスを文字通り「振りかけ」て実験しましたが、一貫性のあるデータを得ることができなかったそうです。壁にぶつかったまま半年がたってしまいましたが、吉村教授に相談したところマウスを使う動物実験に切り替えることを提案され、それがブレイクスルーになりました。

「マウスに抗菌薬を投与するのにどのくらいの量を投与したらいいかを、同じ研究所にいる医学部出身の大学院生からアドバイスをいただきました。薬学、医学、歯学など幅広い分野の研究者がいるので、わからないことがあったときはお互いの専門知識を教えあっています」

船山さんを指導する吉村教授の研究所では、あえて実験を一人だけで続けることがないようにしているといいます。

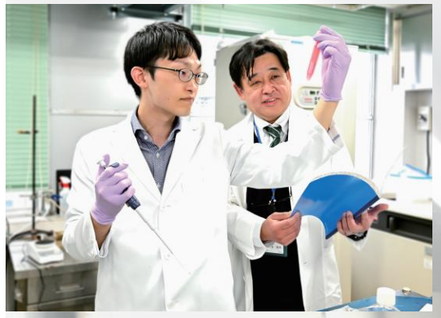
「研究でかけがえのない仲間をつくってほしいということだけでなく、ほかの研究者の目が入ることで実験のやり方が正しいか、データが正しいかというダブルチェックにもなるからです」

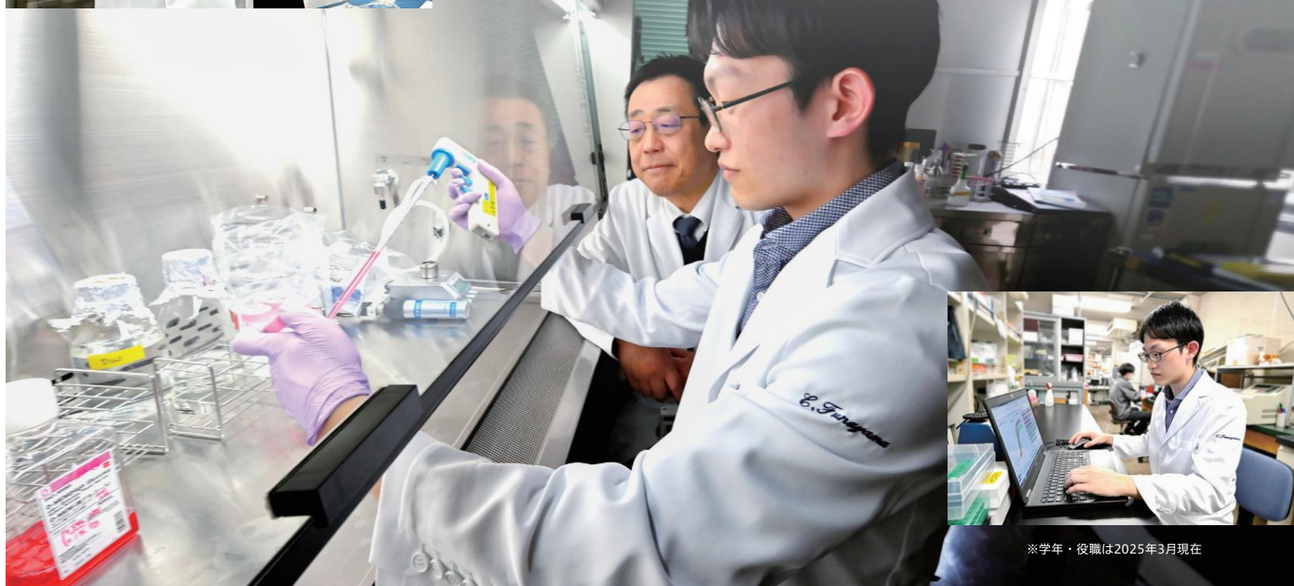
船山さんの学位論文は「Biomedicine & Pharmacotherapy」という学術雑誌に掲載されました。この雑誌はインパクトファクターが6.9（申請時）であり、国際的に高い評価を受けています。船山さんは業績が評価されて大学院を3年間で早期修了し、薬学研究科において上條賞にも選ばれました。

薬理学の野部浩司教授は、研究のオリジナリティも高く評価しています。

「研究者の世界では、人の真似をしても評価されないものです。船山さんの研究は、既存の薬を新たな疾患に転用するリポジショニングでがん免疫治療の効果を上げるという、いま一番注目を集めている分野に一石を投じたものです。オリジナルな研究であるうえに、がん患者さんを救うという、誰を幸せにするかを明確にしているところも素晴らしいと思います」

今後も研究を続け、ICI治療の有効性改善の機序を明らかにしたいという船山さん。視線の先には、研究成果が患者さんに還元され、がんの治療に使われている未来がはっきりと見えているようです。





※学年・役職は2025年3月現在

Graduate School of Health Sciences

保健医療学研究科

博士前期課程（修士）保健医療学専攻／博士後期課程保健医療学専攻

幅広く多彩な研究領域において、保健医療学の専門職教育を担う研究・教育者を育成

研究科長　三村 洋美
Nadami Mimura

保健医療分野の職種を越えた「知と技術の体系化」を目指すとともに、保健医療学の学問的体系に基づいた高度専門職者の教育を担える研究者・教育者の育成を行います。現代社会で生じる健康問題や、それらに関与する多面的要因に関する研究を行い、最新の科学的知見と、それに基づく保健医療の実践を社会に向けて発信しています。

保健医療学において、幅広い専門職種が学びを深められるように多彩な科目を開講し、学びたいと思われる方々に広く門戸を開いています。社会人の大学院生のために、学ぶ方々の都合を考慮して開講していますので安心して学ぶことができます。

博士前期課程は、論文を作成する論文コースと保健医療の高度実践を習得する専門コースがあります。論文コースには４つの分野、19の領域があります。所属する分野・領域以外からの学びも取り入れて研究に取り組めるように科目を準備しています。広がりのある保健医療学の研究に取り組めます。専門コースでは、CNS（高度実践看護師）、医学物理士、認定遺伝カウンセラーを目指すことができます。令和６年度よりアスレティックトレーニング学を開設しアスレティック トレーナーの育成を開始しました。高度実践者になるための単位取得が可能です。多彩な研究領域に触れながら研究と実践をバランス良く高めることができます。

博士後期（博士）課程は、４つの専門教育研究分野で構成されており、保健医療学分野の学術の理論構築および応用の開発に取り組み、高度な専門職業人として、これからのチーム医療を創造する研究・教育者の育成を行います。

研究分野および指導教員（2025年4月1日現在）

博士前期課程	分　野	領　域	指導教員
論文コース	医系基礎・専門・教育	形態解析学	飯塚眞喜人
		病態生理学	下平　和久
		統合医療学	田中　晶子
		医療マネジメント学	上條　由美
		医療人教育学	榎田めぐみ
		臨床栄養学	安部　聡子
	看護	臨床看護ケア開発学	三村　洋美
		コミュニティケア開発学	富田真佐子
		看護マネジメント学	大﨑千恵子
	リハビリテーション	生体機能学	仲保　　徹
		運動機能学	加賀谷善教
		中枢神経機能学	中村　大介
		精神機能学	鈴木　久義
		言語聴覚機能学	小林　一女
		視覚機能学	岩渕　成祐
	医療技術	臨床検査学	安原　　努
		診療放射線学	三村　洋美(代行)
		臨床工学	大石　　竜
		口腔保健学	弘中　祥司

博士前期課程	分　野	領　域	指導教員
専門コース	専門看護師(CNS)	老年看護学	三村　洋美
		精神保健看護学	榎田めぐみ
		がん看護学	渡邊　知映
	遺伝カウンセリング	遺伝カウンセリング学	渡邊　知映
	医学物理教育	医学物理学	宮浦　和徳
	アスレティックトレーニング	アスレティックトレーニング学	加賀谷善教

博士後期課程	分　野	指導教員
論文コース	医系基礎・専門・教育	飯塚眞喜人
	看護	三村　洋美
	リハビリテーション	加賀谷善教
	医療技術	三村　洋美(代行)

八幡 美紀さん
2024年3月 博士前期課程修了
東京都立駒込病院、看護部
看護師、認定遺伝カウンセラー

臨床業務での気づきから、認定遺伝カウンセラーの道へ

修了生の活躍

臨床で看護師として勤務をしている中で、「人の身体や疾患って遺伝子となんて関わりが深いんだ！」と気づいたことで遺伝医療に興味をもち、遺伝カウンセリング学領域を専攻しました。大学院では、現役の認定遺伝カウンセラーをはじめ、遺伝医療に関わる様々な先生方の講義・実習を通し、産科、がん、小児、内科疾患など、幅広い領域について学びを得ることができました。また、修士論文に取り組んだ経験は、自分も含め一人ひとりの医療従事者が医療の発展に寄与するために研究スキルを身につける必要があるというモチベーションをもつことにつながりました。

現在は認定遺伝カウンセラーの資格を取得し、臨床で働き始めたところです。看護師というバックグラウンドを活かし、職場全体の遺伝医療に関するリテラシー向上にも寄与できるよう日々奮闘しています。

研究の現場を訪ねて

アスレティックトレーナーの資格と学位を同時に取得し、選手を支える

アスレティックトレーニング学

院生 1年次　黄 駿佑さん
指導教員　加賀谷 善教教授

黄さんは、昭和大学で理学療法士の資格を取得した後、整形外科の病院に入職。主にスポーツ傷害の患者さんの治療にあたっています。大学院・保健医療学研究科のアスレティックトレーニング学（以下、ATコース）には入職と同時に進学しました。ATコースの2年間の課程を修了すると修士の学位を取得できるだけでなく、日本スポーツ協会公認のアスレティックトレーナー（JSPO-AT）の受験資格も同時に取得できます。アスレティックトレーナーとは、スポーツ活動中の外傷・障害予防、コンディショニングやリコンディショニング、安全と健康管理、そして医療資格者への引き継ぎまでの救急対応に関する知識と実践能力を持つ専門家を育成するための資格です。

黄さんは日々の診療の中で、スポーツ傷害に悩む患者さんの気持ちに寄り添いたいという想いが強くなったといいます。

「たとえば野球では、小中高生のピッチャーが肘を故障してしまうことを防ぐために、投球数の制限を設けています。その一方で選手としては『この大会で優勝したい』とか、『チームのみんなに迷惑をかけてしまう』という想いが強いのです。私は以前からスポーツ後の回復にとても興味があり研究したいと考えていました。その研究がスポーツの制限を解除することにつながるかもしれないと思い、大学院進学を決めたのです」

黄さんは理学療法士としての知識をさらに深め、同時にアスレティックトレーナーの資格も取得することで、これまで以上にケガに悩むアスリートを応援したいと希望しています。

アスレティックトレーナー資格を無理なく取得できるよう指導

黄さんを指導するのは、大学時代からの恩師である理学療法学の加賀谷善教教授です。黄さんが病院における理学療法士としての仕事と、大学院における研究や実習を両立できるように、行うべきタスクにプライオリティをつけるようにアドバイスしました。黄さんとメールで頻繁に連絡をとり質問に答えるようにしています。ときには電話で話を聞くこともあるそうです。加賀谷教授は、アスレティックトレーナーの実習を無理なく行い、かつ修士論文もまとめることができるように配慮しているといいます。

「最初はアスレティックトレーナーの知識・技術の修得に専念できるようにします。合計すると360時間にもおよぶ実習をとおして、アスレティックトレーナーの仕事をプロスポーツの現場で見学したり補助したりすることで、実践的な知識を身につけます。そのうえで臨床に対する疑問を研究マインドとして醸成できるようにさせます。研究計画をつくる支援や学会における発表、論文執筆の指導もしています」

いま黄さんは、ピッチャーが投球した後、ストレッチと微弱電流刺激療法を組み合わせることで筋肉の回復やパフォーマンスの向上を図ることができないかという研究を計画しています。実際にピッチャーを18人集め、投球前、投球後、24時間後の筋力や腕の可動域について、どのような効果があるのか比較する予定です。

修士論文について学会発表も予定しているという黄さん。大学院を修了した後はプロスポーツの世界でトレーナーとして活躍し、スポーツで感動を生んでくれる人を支えたいという夢を持っています。大学院の学位を持つアスレティックトレーナーとして、黄さんの未来には教育者を含めた幅広い活躍のフィールドが広がっていることでしょう。

※学年・役職は2025年3月現在

【博士前期課程】

論文コース 医系基礎・専門・教育分野

形態解析学

当領域では「ヒトおよび動物の正常構造と機能」を基にマクロからミクロのレベル、さらに遺伝子レベルまで幅広い範囲で基礎的研究を行います。対象領域として肉眼解剖学、比較解剖学、組織・細胞学、生理学、生化学などが含まれます。ヒトを対象としてリハビリテーション領域の臨床につながる研究も行うことができます。また、マウスやラットなどを用いた動物実験による研究も行うことができます。職種や有する資格（免許など）は問いません。

病態生理学

当領域では人体の正常機能が破綻することによって引き起こされる疾患や症状の機序などの解明、さらにその予防や回復に関する研究を行います。対象分野は運動器、呼吸器、消化器、循環器、生殖器、神経系、代謝・体液系、内分泌系など広範囲にわたります。研究内容は医学、リハビリテーション学、看護学が基本となり、研究遂行には様々な先端的な研究手法を用います。ヒトを対象とするだけでなく動物実験による研究も行います。

統合医療学

当領域では、保健医療学全般にわたる幅広い分野の研究を行っています。とくに地域医療の取り組み、地域との連携など、これからの医療の在り方を多元的な視点から捉え、医療・社会・生活者を見つめ研究に繋げています。その根底の視点として、人間を社会や自然環境との調和の中で生きている全体的（ホリスティック）な存在として捉え、また人間には自然治癒力が備わっているという視点を大切に研究を行っています。

医療マネジメント学

少子高齢化、医療の複雑化、医療費増大など医療における課題はたくさんあります。安定的な病院運営のためには、データに基づく解析と多職種を活かす組織運営が必要です。当領域では、医療現場において、質の高い医療サービスを効率的に提供するために必要なマネジメント能力を発揮できる人物の養成を目指しています。医療の質改善、地域連携、病院経営、運営管理、災害時の対応など様々な分野における専門的な研究を行っています。

医療人教育学

臨床の場において高度な実践力を発揮しつつ教育者としての立ち位置を持つ教員と、研究力も兼ね備え教育の場で活躍する大学教員の育成を目指します。医療専門職としての資質や能力をいかに育むか、学修成果をどのように測定するか等を探究し、大学教育や現任教育に活かせるようにしています。学修方略や学修成果に関する研究、教員に求められる能力の抽出等、研究テーマは様々です。

臨床栄養学

栄養学は、人々の健康に深く関与していることから、予防から疾病の治療食まで幅広い分野があります。当領域では、臨床栄養学に加えて、看護やリハビリテーション分野における栄養学領域を広範囲に取り扱います。研究内容は、臨床における治療食の効果検証の他、看護師が患者のために実施する栄養ケアや食生活のサポート、リハビリテーション栄養やスポーツ栄養等、運動実践に必要な栄養補給方法の研究も行っています。

論文コース 看護分野

臨床看護ケア開発学

臨床における看護ケアに関する研究を行います。看護技術や看護ケア評価をはじめ患者教育、臨床看護師のスキルアップ教育と幅広いテーマの研究を行います。臨床看護の実践を科学的に説明することを目指しています。看護師、助産師をはじめ看護のライセンスを持つ方、介護の専門職者の方や福祉系の方も研究ができます。

コミュニティケア開発学

地域で暮らす人々の生活の質を高める取り組みとして、あらゆる健康レベルや発達段階にある人々への看護に焦点を当てた研究、地域で支える保健・医療・福祉のケアシステム開発の研究を行っています。人々が住み慣れた地域で自分らしく生活することを実現するために、地域での健康づくりや介護予防、子育て支援、訪問看護、病院から地域への継続看護など幅広い領域での個別ケアや集団・地域へのケアシステムの開発を目指しています。

看護マネジメント学

すべての看護職は看護業務を管理しているといわれるように、看護管理は管理者だけが行うわけではありません。当領域では、看護の目的である質の高いサービスの提供を実現するために、看護マネジメントの視点から必要な要素を探求します。具体的には、人材育成や業務管理、医療の質保証、目標管理、組織内コミュニケーションなどのテーマをとおして、臨床での疑問や課題を解決に導くことができる能力を育成します。

論文コース リハビリテーション分野

生体機能学

人間が生命活動を維持するうえで不可欠な生体機能に関して研究する領域です。加齢や運動に伴う生体機能の変化を分析し、最適なトレーニング方法などについて検証します。また、心臓、呼吸、腎臓、内分泌代謝など身体内部の様々な臓器障害やがん治療におけるリハビリテーションに関して、集中治療室で行う高度急性期医療から回復期・在宅医療に至るまで多角的な視点で臨床研究を行い、最新の知見や技術を発信していきます。

運動機能学

運動機能とはヒトが身体を動かす機能と定義され、本来は脳・脊髄・筋などの組織に働きかけ運動を起こす能力とされています。当領域では、特に筋や関節といった運動器の機能について、成長期から高齢者といった幅広い年齢層に対し研究を行います。健常人を対象にしたバイオメカニカルな研究を予防や臨床に応用するだけでなく、臨床研究を推進して運動障害に悩む対象者のリハビリテーションの開発研究を行う分野です。

中枢神経機能学

脳卒中などの脳損傷によって、感覚機能・運動機能・認知機能（高次脳機能）・精神機能などADL能力の向上を妨げる大きな要因となります。主に中枢神経系が関わる諸機能についてリハビリテーションの対象となる障害を全人的に捉え、認知機能障害や身体機能障害の症状特性に関して学修します。健康で質の高い生活を営む妨げとなる病態、症状の機能回復のメカニズム、より適切な評価方法や介入方法についての検討を行います。

精神機能学

精神機能学では主として、精神保健上の問題を抱える対象者・家族、精神保健医療福祉従事者自身を対象として研究を進めることになります。また、精神保健医療福祉従事者に対する教育に関する研究も同等に重要です。臨床現場における種々の問題の解決につながる研究を展開するために必要な基礎的学力を得ることを目的としています。所属院生は作業療法士、保健師、看護師、理学療法士、社会福祉士および精神保健福祉士等を想定しています。

言語聴覚機能学

言語聴覚機能学は聴覚、音声言語、そしゃく・嚥下に関する領域を扱います。言語聴覚士を中心に、言語、聴覚、嚥下のリハビリテーションに関する研究を支援します。

視覚機能学

眼球運動、視空間認知、視覚情報という視覚機能を基本として視覚に関連した研究を行う領域となります。視覚機能士の方、視覚検査やリハビリテーションに興味がある方の研究を支援します。

【博士前期課程】

論文コース 医療技術分野

臨床検査学

臨床検査は医療を行う上で欠かせない領域の一つです。診療、看護、他の検査、治療を実施する上でも患者の状態を客観的に判断できる方法です。基礎教育でも多くの検査や疾患を学んでいますが、検査結果を深く正しく読み込むためには検査の原理を正しく理解する必要があります。また、新規の検査も出現し新たな知見も発見されています。臨床検査学は検査の意味を理解し判断するための知識を学び、研究する領域です。

診療放射線学

放射線に関する撮影技術、検査技術、放射線治療技術、放射線測定技術、放射線管理技術などについて研究を行っています。また、チーム医療やスタッフ教育に関する教育、研究、医療人として、また組織人の育成も行っています。診療放射線学技術の最新知見、医療従事者の教育指導法を学修、研究することによって、放射線診断領域や医療現場でリーダーシップを発揮する能力を持つ診療放射線技師ならびに医療従事者を育成します。

臨床工学

臨床工学領域の基礎学力および人工呼吸・体外循環・血液透析などの各分野における専門知識を幅広く学修するとともに、最新の医療機器についての理解を深めることによって専門知識と広い学識を修得し、医療現場でのリーダーならびに教育者を育成します。また、機器管理の実務的専門家として、医療安全工学の観点から医療職場での事故防止や医療機器開発に関連する研究を行うこともできます。

口腔保健学

口腔保健学では口腔から全身の健康を支援し、生活の質を高める取り組みや効果的な口腔健康管理システムの開発・研究を行っています。妊娠期からのすべてのライフステージにおいて口腔健康管理を行いながら口腔機能の維持・向上に向けた力を発揮できる人材の育成に取り組みます。口腔保健の専門的立場から幅広い他の領域や分野とも連携を図り、国民の健康寿命延伸に寄与するための基盤をつくることを目的としています。

専門コース 専門看護師（CNS）分野

老年看護学

高度実践看護師課程（38単位）として、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供できる高度な看護実践能力を育成します。急性期病院から在宅という幅広い視野で、老年者の健康の回復や増進を支える卓越した看護実践能力を身につけます。老年看護に興味があり、高度な実践能力を身につけたいと考えている看護師（実務経験5年そのうち3年は専門分野で実践が必要です）。

精神保健看護学

精神保健上の問題を抱え、地域で治療やリハビリテーションを受けている対象や療養中の対象への高度なケアを提供できる、また社会の人々の精神的な健康を守ることで社会に貢献できる精神看護専門看護師の育成を目指します。精神科救急医療はもとより、地域における多様な精神保健看護分野への要請に対応でき、そして精神看護専門看護師の役割や機能、社会的な価値について実績を示して説明できる専門看護師を養成します。

がん看護学

本学の強みである最先端のがん医療とそれを支えるチーム医療を講義・実践・研究を通して学びます。キュアとケアを統合してがんを持つ人を全人的に支え、がん患者とその家族のQOLを高めるためのエビデンスに基づいた卓越したがん看護実践能力を身につけます。
高度実践看護師課程（38単位）として認定をうけ、がん看護専門看護師の育成を目的とします。

専門コース 遺伝カウンセリング分野

遺伝カウンセリング学

認定遺伝カウンセラーは、最新の遺伝医学の知識を持ち、遺伝医療を必要としている患者や家族に、適切な遺伝情報や社会の支援体制等のさまざまな情報提供を行い、心理的・社会的サポートを通して、当事者の自律的な意思決定を支援する保健医療専門職です。本コースは、認定遺伝カウンセラー制度による遺伝カウンセラー教育課程として認定されており、単位取得することで認定試験の受験資格を得ることができます。

専門コース 医学物理教育分野

医学物理学

医学物理学とは、物理工学の知識・成果を医学・医療に応用・活用することを目的とする学問です。本分野は、放射線医学における物理的および技術的課題の解決に先導的役割を担う者として、放射線を用いた医療が適切に実施されるように、医学物理の専門家である医学物理士の育成を目指しています。対象は、理工学系・放射線技術系学士の学位を有している方です。本邦では医学物理士の数が圧倒的に不足しており、今後ますます発展が期待される領域です。

専門コース アスレティックトレーニング分野

アスレティックトレーニング学

アスレティックトレーニング学とは、スポーツを行う者に対するスポーツ傷害の予防とケア、パフォーマンス向上を目的に、学際的な研究成果とスポーツ現場での実践を融合させる応用科学です。本コースでは、スポーツ現場での実習を通じて実践研究を具現化できる人材を育成します。また、日本スポーツ協会によるアスレティックトレーナー（JSPO-AT）免除適応コースとして承認されており、単位取得することで認定試験の受験資格を得ることができます。

【博士後期課程】

論文コース

医系基礎・専門・教育分野

前期課程の「医系基礎・専門・教育領域」の各領域で行われた研究内容をさらに発展させ、新知見を探求、発見する研究を行います。基礎・臨床に関わる実験・観察系の研究だけでなく、マネジメントや教育に関する応用研究も含まれ、多種多様な研究方法を用います。ヒトを対象とする研究だけでなく、動物実験による研究も行っています。得られた研究成果は広く全世界に発信します。職種や有する資格（免許など）は問いません。

看護分野

保健医療学の中の看護学の学問体系において研究を行います。社会の要請に応えるべく高度な看護実践や看護管理の科学的根拠となる研究を行います。博士前期課程の看護分野とつながりを持ち、さらに高度で独創的な研究へと進めます。学問の発展に寄与する研究成果は世界に発信します。保健医療学のリーダーとなる教育者、研究者を輩出します。看護師、保健師、助産師、看護学に興味のある方（博士前期課程（修士課程）を修了していることが必要です）。

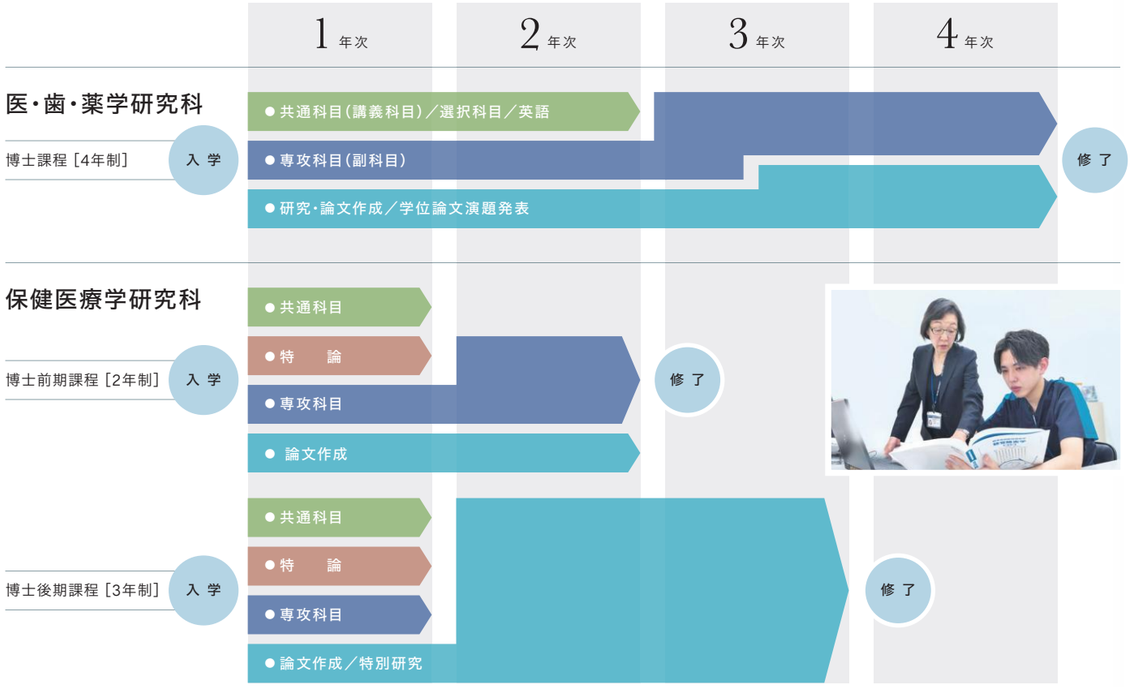
リハビリテーション分野

リハビリテーション分野は、中枢神経障害や呼吸器・循環器・代謝系障害、運動器障害や精神保健上の問題など多岐に渡ります。博士後期課程では、博士前期課程におけるこれらの部門で培われた知識を基に、より先進的な研究に取り組み基礎研究だけでなく臨床研究を活性化していきます。さらに、研究責任者として研究の企画・実践ができるだけでなく、後進の指導や論文の査読ができる段階に到達できるような能力を養います。

医療技術分野

医療技術分野は、診療放射線学、医学物理学における基礎知識、専門知識を学修するとともに、最新の知見や理解を深め、幅広い学識を修得し、医療現場でのリーダーならびに教育者を育成します。また、各領域の専門家として、医療安全も含めた医療職場での中心的人材を育成し、さらに、研究責任者として研究の企画・実践ができ、加えて後進の指導や論文の査読ができる人材を育成します。

カリキュラム



共通科目

大学院での研究を開始するにあたり、研究の進め方、科学論文の読み方、実践の基礎および実験結果の統計的処理方法など、研究者に共通の知識・技術について学びます。全研究科の在籍者が受講できます。

- ◎ 生体の組織構造解析法
- ◎ 生体の病理病態学的解析法
- ◎ 生体の機能解析法
- ◎ 生体内の物質分析法
- ◎ 分子生命科学的解析法
- ◎ 医学生物における統計学的解析法
- ◎ 研究倫理・教育・AI

専攻科目（副科目）

共通科目で基礎教養を修得したのち、専攻科目で専門分野について深く学びます。実習・演習を主とし、論文抄読等も含め、指導教員による少人数制指導が行われます。

学位論文演題発表

学位論文は、研究科主催の発表会または学内学会である昭和医科大学学士会で全員が演題発表を行います。

4大学院連携 がんチーム医療

各大学の特色あるがん医療を学び、さまざまな場面で貢献できる人材を養成

がん治療は、多職種が連携して患者さんを支えるチーム医療の代表的な分野です。大学病院での先端医療から在宅での緩和医療まで、その範囲も広く、チーム医療の組み合わせや目的も多岐にわたります。こうした背景から、さまざまな場面で貢献できる力を養うため、2014年度から東京慈恵会医科大学、星薬科大学、上智大学と連携し、4大学院共通科目「がんチーム医療」を開講しています。各大学の特色あるがん医療の授業を受講するとともに、多職種の大学院生がグループで最適な治療やケアを討議・提案する、ワークショップを開催しています。

共同研究施設

昭和医科大学では各学部・研究科等に共通する研究の充実のために、5つの共同研究施設があります。

遺伝子組換え実験室 ❶

動物実験による遺伝子組換え実験室。微生物や動物細胞を用いた遺伝子組換えを行う実験や遺伝子組換え動物の飼育・繁殖、実験を行う施設の管理と運営を行っています。本学研究者が登録をして利用できます。

電子顕微鏡室 ❷

透過電子顕微鏡、走査電子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡などを用いた、超微細構造形態や3次元解析などの研究・教育を行うバイオイメージングの共同施設です。本学教職員、大学院生、研究生等は指定の講習を受けることにより利用できます。

分子分析センター ❸

質量分析、核磁気共鳴装置など、共用性の高い機器分析装置を維持管理する共同施設です。装置操作の技術指導や、装置メーカー担当者等を招いたセミナー講習会を教員・学生へ随時行っています。本学学部学生や大学院生、教員、学外共同研究者が利用できます。依頼測定にも応じています。

動物実験施設 ❹

実験動物を適正に飼養・保管し、動物実験等を適正かつ安全に遂行するための施設です。

臨床医学共同研究室

主に医学部の臨床系講座が利用している研究室です。デジタルPCRシステム、マルチプレックスアッセイシステム、DNAシークエンサー、リアルタイムPCR解析システム、フローサイトメトリーシステムなどの様々な研究機器のほか、組織染色実験や細胞培養実験などの設備を設置しており、機器の使用説明会やセミナーなども行っています。

昭和医科大学統括研究推進センター ｜ SURAC

大学院在学中も卒業後も、研究に関する様々な支援が受けられます。

昭和医科大学統括研究推進センター（SURAC）では、大学院生を含めた研究者向けの教育や研究相談、研究倫理審査、競争的資金の獲得、各種研究費の執行管理や知的財産・発明申請など研究に関する支援を行い、研究者が臨床業務を行いながら研究を両立できる体制づくりを推進しています。臨床研究に関わる倫理審査の手続き、論文作成、統計解析など、研究に関する様々なご相談を受け付けています。お気軽にお問合せください。

また、学内関係者が閲覧可能な研究に関する教育コンテンツも公開していますので、これから研究活動をはじめる大学院生にぜひご活用いただければと思います。

センター長　三邉 武彦

最先端の研究を支える

研　究　所

本学の11研究所では、医系総合大学としての特色を生かし、4学部および附属病院の臨床と連携した学際的研究を推進しています。その成果は、新たな治療法の確立や新薬開発への礎となり、医学の発展に大きく貢献しています。

Clinical Research Institute for Clinical Pharmacology & Therapeutics

臨床薬理研究所

◆所長　小林 真一

本研究所は、2011年に昭和医科大学烏山病院内に設立された研究専用ベッド44床を有する研究施設で早期探索的治験や臨床薬理試験を実施しています。

2020年4月に臨床免疫腫瘍学部門、翌年4月に臨床腫瘍診断学部門が設置され、がん免疫療法に係る先端的な研究が、さらに9月には薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門が設置され、薬学的発想に基づく臨床研究も実施しています。臨床薬理研究所は昭和医科大学の各附属病院や各学部の講座等、他大学・機関と協同して多くの成果を出しています。

The Mt. Fuji Institute For Nature and Biology

富士山麓自然・生物研究所

◆所長　平井 康昭

富士山麓自然・生物研究所は、富士山麓の自然環境と生態系の保全に寄与することを目的として2022年5月に開所しました。標高3776 mの活火山である富士山の裾野には、富士五湖を含む水域や、人為的な影響が大きい伐採地から国立公園までを含む陸域が存在します。2013年に世界文化遺産に登録され、山麓地域を包含した保全の取り組みがより一層求められています。今後は自然環境と生態系の調査・研究に加えて学生への教育普及活動にも取り組み、さらに地方自治体が行う自然環境調査や市町村史編纂に協同して、富士山麓の保全に貢献しようと考えています。

Brain Function Analysis & Digital Medicine Research Institute

脳機能解析・デジタル医学研究所

◆所長　佐藤 洋輔

2018年に昭和医科大学は日本てんかん学会研修施設に認定され、安全確実なてんかん診療の実践と、特殊脳波解析技術を活用した脳機能研究に精力的に取り組んでいます。

また近年は、生体シグナルや医用映像などの様々な情報がデジタル化され、適切なソフトウェアやAI技術を活用することで、新たな知見や発明がもたらされる可能性が高まっています。脳機能解析・デジタル医学研究所は、革新的かつ臨床直結型の脳機能解析研究および技術開発と、医学・医療における先進的なDx化を目的として、2023年4月に設置されました。

Advanced Cancer Translational Research Institute

先端がん治療研究所

◆所長　鶴谷 純司

先端がん治療研究所は、基礎研究や臨床研究を通じてがんの診断・治療・予防技術の開発を推進します。細胞株や動物モデルを用いた基礎研究の経験や、また血液や腫瘍検体を用いたトランスレーショナルリサーチのための基礎知識を学びます。

さらに、2022年3月には昭和医科大学病院内に先端がん治療研究臨床センターが設置され、治験、特定臨床研究、医学研究を経験することが可能です。基礎と臨床を融合したがんのトランスレーショナルリサーチのトレーニングを通して、研究者を目指してみませんか。

Research Institute for Sport and Exercise Sciences

スポーツ運動科学研究所

◆所長　三邉 武幸

スポーツ健康科学分野の発展に寄与すべく、2015年4月に昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院内に設立されました。トップアスリートから運動愛好家までの運動器・内科・歯科・栄養に関する障害予防や疾病治療などを大きなテーマにしています。そして、リハビリ病院を中心に他の附属病院・各学部と連携し、それぞれの診療科・学部研究室のテーマを横断的に融合させた学際的な研究を行っています。また、学生教育や地域健康増進活動にも取り組んでいき、スポーツ医科学・健康科学を通して人間の可能性を探求する研究所を目指しています。

Institute of Stress Management

ストレスマネジメント研究所

◆所長　中尾 睦宏

2023年に昭和医科大学旗の台キャンパスに開設された研究所です。常勤スタッフは３名、研究室は２つと人員・設備は限られているので、オンラインを活用してストレスマネジメント・プログラムと一般心理カウンセリングの社会実装を当面の課題としています。研究面では、健常な方や未病の段階の方を対象としたストレスマネジメント・プログラムのランダム化比較試験を実施中です。教育面では、医学部の行動医学、他学部では行動科学を担当しています。以上、産・官・学の連携を目指して活動をしています。

Institute of Clinical Epidemiology

臨床疫学研究所

◆所長　長谷川 毅

臨床疫学は臨床医学におけるクリニカル・クエスチョンを疫学的な手法を用いて解決しようとするEvidence based medicine（EBM）の根幹を成す実践的な学問領域です。医学部だけでなく歯学部、薬学部、保健医療学部を有する医系総合大学である本学の多職種連携の特色を活かした、他にはない学部横断的な臨床疫学の研究・教育拠点として、2024年4月に臨床疫学研究所が設置されました。臨床疫学研究を通じて、本学の学術的評価の向上を図るとともに、建学の精神に沿う「実地に役立つ」より良き医療人の育成に貢献することを目指しています。

Medical Institute of Developmental Disabilities Research

発達障害医療研究所

◆所長　太田 晴久

2013年に昭和医科大学烏山病院内に開設した成人発達障害専門外来を持つ研究所です。臨床集積は国内最大級であり、成人の自閉症スペクトラムと注意欠如多動性障害を主な対象として、質問紙調査からデイケアプログラムの開発、最新の脳科学研究に至るまで、発達障害に関する幅広い臨床研究を実施しています。脳科学（神経科学）の分野では、最新の3テスラMRI装置を導入して、発達障害の脳画像研究を推進しています。MRI以外にも、視線計測装置や脳波計、経頭蓋磁気刺激（TMS）装置など、脳科学の最新の知見と技術を駆使した研究に取り組んでいます。

Institute for Clinical Genetics and Genomics

臨床ゲノム研究所

臨床ゲノム研究所は、ゲノム医療を昭和医科大学が一丸となって推進していくという旗頭を掲げて、2022年4月に設立されました。まず、医療職の方には、がんゲノム医療を理解し、臨床での実践に役立つようなe-learningソフトを作成しました。また、患者さんを含む一般の方向けのソフトも作成しました。各附属病院で行われているがんゲノム検査の結果とその関連の医療情報を一元管理できるデータベースを開発し、今後様々な目的で利用できるよう整備していきます。今後は、がんのみならず、他の広範な疾病に係るゲノム情報も収集して利活用できるようにしていく所存です。

Institute of Medical Design

メディカルデザイン研究所

◆所長　安次富 隆

メディカルデザイン研究所は、多摩美術大学との包括連携協定のもと、医療分野におけるデザイン研究を通して、患者さんや医療従事者のQOLの向上に寄与するため、2024年4月に横浜キャンパスに設置されました。

当研究所は、世界に例のない医術と美術（デザイン）の連携による医療現場全体のQOLを向上させる手法を切り拓くことを目指しています。

Institute for Extracellular Matrix Research

細胞外マトリックス研究所

◆所長　宮崎 章

細胞外マトリックス研究所は2024年4月に昭和医科大学の11番目の研究所として旗の台キャンパス内に設立されました。生体の構造と機能を支える「生命の足場」である細胞外マトリックスに関する研究を主軸としています。現在は特に線維化関連疾患に焦点を当て、細胞外マトリックスの過剰蓄積メカニズムの解明と、線維化関連疾患の治療法開発に取り組んでいます。また研究成果の社会実装を目指し、産学官連携を積極的に推進しています。これらの取り組みを通じて、当研究所で開発された新技術を効果的に社会に還元し、医療の進歩に貢献することを目標としています。

大学院データ

在学生数
（2025年4月1日現在）

	研究科名称	入学定員	収容定員	募集定員	在学生数
大学院	医学研究科	60	240	60	285
	歯学研究科	22	88	22	109
	薬学研究科	15	60	15	103
	保健医療学研究科（博士前期課程）	20	40	20	51
	保健医療学研究科（博士後期課程）	6	18	6	17
合　計		123	446	123	565

入学試験結果
（2025年4月1日現在）

区　分			志願者			入学者数			入学者の出身大学等		
			男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外
医学研究科	2024年度秋季	一　般	2	0	2	2	0	2	1	1	0
		社会人	12	4	16	12	4	16	7	9	0
		合　計	14	4	18	14	4	18	8	10	0
	2025年度春季	Ⅰ期一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		Ⅰ期社会人	5	5	10	5	5	10	9	1	0
		Ⅱ期一般	3	1	4	3	1	4	1	3	0
		Ⅱ期社会人	13	10	23	12	10	22	14	8	0
		合　計	21	16	37	20	16	36	24	12	0
歯学研究科	2024年度秋季	一　般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合　計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2025年度春季	Ⅰ期一般	5	4	9	4	3	7	5	2	0
		Ⅰ期社会人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		Ⅱ期一般	13	12	25	10	12	22	15	7	0
		Ⅱ期社会人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合　計	18	16	34	14	15	29	20	9	0
薬学研究科	2024年度秋季	一　般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人	1	0	1	1	0	1	0	1	0
		合　計	1	0	1	1	0	1	0	1	0
	2025年度春季	Ⅰ期一般	3	2	5	2	2	4	3	1	0
		Ⅰ期社会人	6	3	9	5	3	8	6	2	0
		Ⅱ期一般	1	0	1	0	0	0	0	0	0
		Ⅱ期社会人	1	0	1	1	0	1	0	1	0
		合　計	11	5	16	8	5	13	9	4	0

区　分				志願者			入学者数			入学者の出身大学等		
				男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外
保健医療学研究科	2024年度秋季	博士前期課程	一　般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			社会人	5	7	12	2	5	7	4	2	1
			合　計	5	7	12	2	5	7	4	2	1
		博士後期課程	一　般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			社会人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			合　計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合　計		5	7	12	2	5	7	4	2	1
	2025年度春季	博士前期課程※	一　般	2	0	2	2	0	2	1	1	0
			社会人	13	3	16	11	2	13	4	9	0
			合　計	15	3	18	13	2	15	5	10	0
		博士後期課程	一　般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			社会人	5	1	6	5	0	5	4	1	5
			合　計	5	1	6	5	0	5	4	1	5
		合　計		20	4	24	18	2	20	9	11	5

※専門コースを含む

■2024年度秋季合計［4研究科］

区　分	志願者			入学者数			入学者の出身大学等		
	男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外
合　計	20	11	31	17	9	26	12	13	1

■2025年度春季合計［4研究科］

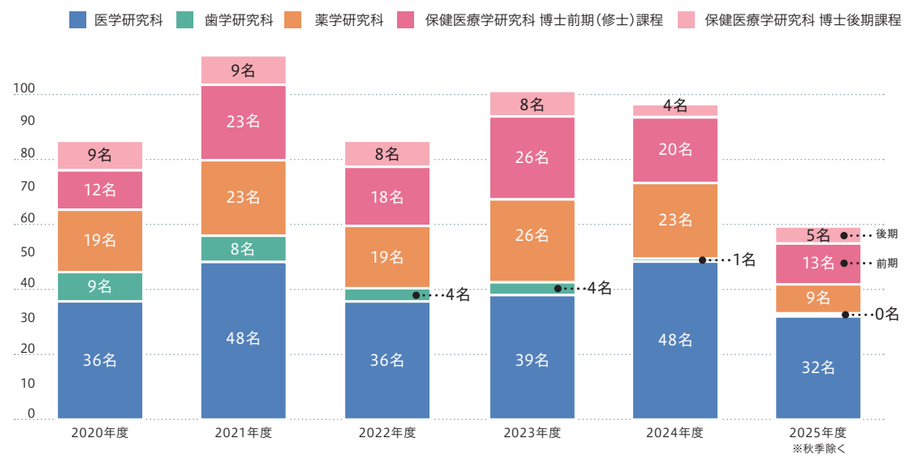
区　分	志願者			入学者数			入学者の出身大学等		
	男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外
合　計	70	41	111	60	38	98	62	36	5

修了者数
（2025年3月31日現在）

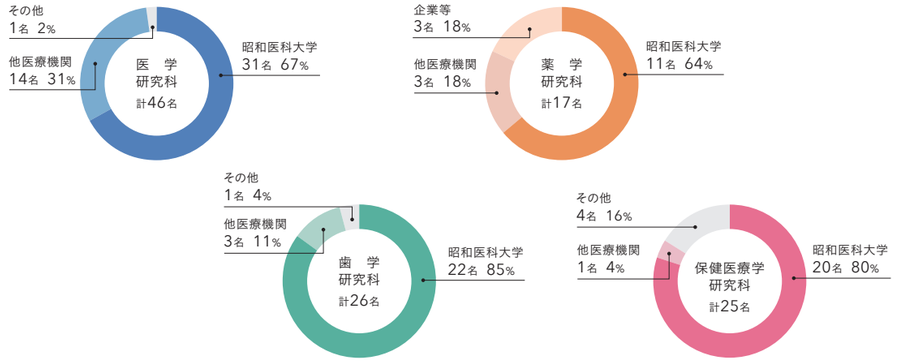
区　分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
医学研究科（博士）	58	45	53	43	40	34	46
歯学研究科（博士）	27	21	22	19	22	25	26
薬学研究科（博士）	10	15	13	17	13	18	17
保健医療学研究科（博士前期課程）	16	20	20	17	16	15	15
保健医療学研究科（博士後期課程）	3	1	5	5	5	9	10

※保健医療学研究科（博士前期課程）には、CNS修了者を含む

社会人の受入実績
（2025年4月1日現在）



2024年度 修了者進路状況



早期修了制度

下記の年数以上在籍していれば、優秀な業績をあげた学生に限り、特例により在学期間の短縮が認められています。

◎ 博士課程　　3年
◎ 博士前期課程　1年
◎ 博士後期課程　修士課程もしくは博士前期課程に2年以上在籍し、当該課程を修了した者　1年
◎ 修士課程に1年以上在籍し、当該課程を修了した者　修士課程における在籍期間を含めて3年

表彰制度

【上條賞】

在学中に特に優れた業績をあげた学生に対して、上條賞が授与されます。

大学院生海外渡航奨学金制度

昭和医科大学では大学院各研究科の在学生が海外に渡航し学会発表等を行う場合に、申請により奨学金を支給する制度をもうけています。在学中1回で、10万円を限度とします。なお、この奨学金の対象は筆頭演者として研究発表する場合（渡航期間5日間以上）に限られます。

科目等履修生制度
（MDプログラム）

科目等履修生制度（Multi Doctorプログラム）は、次世代の研究者を育成するために、本学の学部在学生が科目等履修生として大学院の教育を受け、研究マインドを醸成するものです。医学部、歯学部、薬学部の第4学年以上を対象とし、大学院の専門的な科目を受講する十分な学力があると認められた学生が、医学研究科、歯学研究科、薬学研究科のひとつを選択して修学できます。学部卒業後、決められた期間に大学院に入学した場合、科目等履修生として修得した単位は、修了必要単位として算入することができ、早期から論文作成に向けて研究に集中することができます。

大学院データ

奨学金制度

◆昭和医科大学独自の奨学金制度

名　称	制度の内容	給付／貸与	対象研究科	対象者	給付額／貸与額	給付期間
昭和医科大学 大学院奨学金	昭和医科大学大学院奨学金給付制度は、学生が経済的理由により大学院に進学できないことや、研究を断念することがないよう、また、優秀な学生に対して学業を奨励し、本学全体の学術研究の質的レベルの向上を図るために設けられた奨学金給付制度（返還義務のない奨学金）です。 ※学費納付後に給付されます。	給　付	全研究科	日本に生活基盤を有さない外国籍の学生で、本奨学金以外の奨学金の給付を受けていない者	1年次　60万円／年 2 年次～ 4年次 50万円／年	標準 修業 年限
			医学研究科 歯学研究科 薬学研究科	学部５・６年次に本学学部特別奨学金の給付を受けていた者	1年次～ 4年次 40万円／年	
			薬学研究科	臨床薬剤師研修を行い、大学院修了後、4年以上本学において、教育・研究・臨床に従事する者	1年次～ 4年次 40万円／年	
大学院 特別奨学金	大学院特別奨学金は、特別奨学生が経済的理由により、大学院進学を断念することがないよう、また、学業に専念できるよう設けられた奨学金給付制度です。 ※学費納付後に給付されます。	給　付	薬学研究科	学部５・６年次に本学学部特別奨学金の給付を受けていた者	1年次～ 4年次 120万円／年 ただし、臨床研修薬剤師期間を除く	
学校法人 昭和医科大学 奨学金	学校法人昭和医科大学奨学金は、修学が困難な学生に貸与し、優秀な人材を育成するために設けられた貸与型の奨学金です。	貸　与	全研究科	一般枠の学生で、日本学生支援機構による奨学金の採用をされなかった者	50万円／年	1 年間

※他の奨学金給付制度（返還義務のない奨学金）との併用はできません。
※奨学金制度については変更になる場合があるため、最新の情報はホームページ、入試要項等をご覧ください。

◆昭和医科大学以外の奨学金制度

名　称	制度の内容	給付／貸与	対象研究科	対象者	給付額／貸与額	給付期間
岩垂育英会	岩垂育英会は、生命科学、特に、歯科基礎医学を研究する大学院生で、学術優秀でありながら経済的理由によって、修学が困難なものに対して奨学援助を行うことにより、将来有用な歯科基礎医学研究者の人材を育成することを目的としています。	給　付	歯学研究科	歯学研究科に在籍する学生	5万円／月	1年間
森田奨学 育英会	森田奨学生育英会は、学術優秀、品行方正、身体強健でありながら、経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援護を行い、もって社会有能の人材を育成すること並びに歯科医学医術向上のため奨学事業を行うことを目的としています。	給　付	歯学研究科	歯学研究科の4年生	3万円／月	1年間
日本学生 支援機構	日本学生支援機構は、経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し、奨学金を貸与しています。	貸　与	全研究科	全大学院生	5万円～ 15万円／月	標準 修業 年限

※日本学生支援機構については業績優秀者返還免除制度があります。（無利子貸与奨学金のみ）

学　　費

	入学金	授業料（年額）	実習費（年額）	施設費	合　計
医学研究科	100,000円	400,000円	100,000円	300,000円	900,000円
歯学研究科	100,000円	400,000円	100,000円	300,000円	900,000円
薬学研究科	100,000円	400,000円	100,000円	100,000円	700,000円
保健医療学研究科 （博士前期課程）	100,000円	400,000円	100,000円	100,000円	700,000円
保健医療学研究科 （博士後期課程）	100,000円	400,000円	100,000円	100,000円	700,000円

※入学金と施設費は、初年度のみ納付　※施設費は、本学出身者は免除

研究科　募集要項

※詳細は入試要項、各研究科のHPでご確認ください。

医学研究科

入学時期　春季：4月／秋季：10月
入試時期　春季Ⅰ期・秋季：8月／春季Ⅱ期：2月
募集人員　春季Ⅰ期：一般・社会人各30名／春季Ⅱ期・秋季：一般・社会人各若干名
選抜方法　外国語試験（英語）および志望専門科目（口頭試問等）

歯学研究科

入学時期　春季：4月／秋季：10月
入試時期　春季Ⅰ期・秋季：8月／春季Ⅱ期：2月
募集人員　春季Ⅰ期：一般22名・社会人若干名／春季Ⅱ期・秋季：一般・社会人各若干名
選抜方法　外国語試験（英語）および志望専門科目（口頭試問等）

薬学研究科

入学時期　春季：4月／秋季：10月
入試時期　春季Ⅰ期・秋季：8月／春季Ⅱ期：2月
募集人員　春季Ⅰ期：一般・社会人15名／春季Ⅱ期・秋季：一般・社会人各若干名
選抜方法　外国語試験（英語）および志望専門科目（口頭試問等）

保健医療学研究科

入学時期　春季：4月／秋季：10月
入試時期　春季：11月／秋季：8月
募集人員　春季：前期20名・後期6名／秋季：前・後期ともに若干名
選抜方法　前期：英語・小論文および面接／後期：英語および志望専門科目

●昭和医科大学大学院についての問い合わせはこちらまで

昭和医科大学学事部大学院課［医学研究科・歯学研究科・薬学研究科］
〒142-8777 東京都品川区旗の台1-9-14　TEL：03-3784-8793
Mail：daigakuin@ofc.showa-u.ac.jp

昭和医科大学学事部長津田校舎事務課［保健医療学研究科］
〒226-8555 神奈川県横浜市緑区十日市場町1865　TEL：045-985-6503
Mail：nrkyoumu@ofc.showa-u.ac.jp